

令和6年 第870回小浜市教育委員会定例会 会議録

開催日時	令和6年8月21日(水)		開会 15:30 閉会 16:20		
開催場所	市庁舎4階401会議室				
出席委員	窪田教育長	上田職務代理者	村上委員	坂下委員	桂田委員
欠席委員					
事務局	谷教育部長	畑田教育部次長	日比野生涯学習 スポーツ課長	松宮主幹	井上課長補佐
	赤崎課長補佐	田中課長補佐			
傍聴者					
会 議				会議の結果	
<p>委員会開会</p> <p>(教育長) 宣言および開会あいさつ</p> <p>8月30日から市内小中学校の2学期がスタートする。今年度から学校DXの推進を最重点目標とし、授業変革、校務変革、研修変革を相似形で進められるよう、4月に組織を立ち上げて取り組んでいるところである。これらの取組みを中心に、2学期が更に実りあるものとなるよう、各学校でそれぞれ進めてもらっており、市教委も学校の取組みを最大限支援していきたい。委員の皆様にもご協力をお願いする。</p> <p>1 会議録の承認について</p> <p>第869回教育委員会定例会会議録 <承認></p> <p>会議録署名人2名の選任</p> <p>第870回教育委員会定例会会議録署名委員選任 <村上委員、坂下委員></p> <p>2 報告</p> <p>・報告第12号 諸般の報告 令和6年7月25日～令和6年8月20日</p>					

行事予定 令和6年8月21日～令和6年9月30日 《承認》

教育長 総合教育会議の教育委員との事前協議は、9月20日の定例教育委員会終了後に予定してもらえばよいか。

事務局 今のところその予定でお願いしたい。

教育長 市長就任後、初めての総合教育会議であるので、これまでの教育委員会の取組みを踏まえ、現在の優先課題について市長に説明し、理解を求め、強力な後ろ盾をいただきたいと考えている。教育委員の皆様にもご協力をお願いする。

3 議案

・議案第12号 令和6年度9月補正予算の要求について 《承認》

村上委員 物価高騰対策学校給食費緊急支援事業について、牛乳を飲んでいない児童生徒分の補助についてはどうなるのか

事務局 アレルギー等により牛乳を飲んでいない児童生徒もいるが、児童生徒の牛乳代を補助するものではなく、物価高騰による値上がり相当額を公費で負担し各学校の給食会計を支援する手段として、牛乳代に換算している。

上田職務代理者 文化会館耐震改修事業について、文化協会や関係者への説明はどうされるのか。

事務局 新複合的文化施設を求める会から、新しい文化会館の建設を求める署名の提出があり、これまで2回お話をする場を設けている。今回の耐震改修については、進めていくことを理解いただいております。新施設の建設については、別の話として検討していきたい。

上田委員 改修中に文化活動を行う施設はあるのか。

事務局 具体的にはまだ調整できていないが、改修中は文化会館の使用ができないので、他の施設を使用していただく必要がある。

上田委員 2年間文化活動が全くできないとなることを懸念する。注意して進めてほしい。

事務局 文化協会等と協議しながら進めていく。

村上委員 文化会館のトイレはきれいになるのか。

事務局 手洗いの自動水栓およびトイレの一部洋式化を実施済みで、以前に比べるときれいにはなっている。今回は耐震改修のため、トイレを改修する予定はない。

・議案第13号 小浜市表彰選考委員会委員の推薦について 《坂下委員を推薦》

4 教育長報告

・教育に関する大綱について

県教委が5年ぶりに教育に関する大綱の見直しを行っており、今年度の県総合教育会議において、教育に関する大綱（案）が示された。「子どもたちが生まれ育った故郷に愛着と誇りを持って地域の未来を切り開く資質能力を育む」ということが謳われており、現在の小浜市の教育に関する大綱と一致しており、心強く思っている。小浜市は『3S学習』の名のもと子ども中心の授業づくりを40年程前から実施しており、子どもたちが自ら学ぶ力を身に着けていけるように、教師主導の授業から脱却した授業づくりに取り組んでいるところである。

小浜市の教育に関する大綱も、間もなく見直す時期となるが、基本的なところは変えず、目的達成の方法として、学校DXの推進によって目指す授業の姿を実現したいと考えている。

・学校DXに関する調査結果について

お手元にお配りしている、これからの時代の学校の姿と学校DXに関する調査結果のP1.2の見開きをご覧いただきたい。

「これからの時代の授業やその他の教育活動（学級活動、委員会活動、部活動など）」はI～Aのどれが望ましいと思いますか。という問いの回答として、小浜市の教員の意識としては、どの年代、どの学校においてもI（児童生徒が学習や活動を主導し、意思決定は児童生徒と教師の協働で行われる。学習や活動の進行や運営は、児童生徒と教師の対等な立場で共有される（児童生徒が主導し、教師とともに意思決定を共有する））もしくは、H（児童生徒が教師の支援を受けて学習や活動を主導し、方向性を定める。教師は、意見を求められたり、児童生徒が意思決定しやすいように指針やアドバイスを与えたりするが、最終的にすべての意思決定は児童生徒が行う。（児童生徒が主導し、方向性を定める））、こういった授業・学校を目指すべきだ、という考

えが浸透してきている。これは、これまで取り組んできた子ども中心の学校づくりの実践の成果であると考えている。ただ、実際はどうかというと、「現在行っている授業やその他の教育活動（学級活動、委員会活動、部活動等）」はI～Aのどれにもっとも当てはまりますか。という問いの回答として、G（教師が進め、主導する学習活動の意思決定の過程に、児童生徒も参画する。（意思決定を教師と児童生徒で共有しながら、教師が導く））が多く、グラフの様相が逆転しているという結果であった。

しかし、その中で着目すべき点としては、学校別の割合で見ると、既にI・Hを実践している教師が一定数いる学校がある。特に、小浜第二中学校においてはICTを活用した生徒主体の学校づくり、しかもこれまでの単線型から複線型の授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るという取組みにチャレンジしている若手の教員が多いことが特徴的である。このアンケートは4月時点のものであるので、現時点でどのような割合となっているか楽しみなところである。9月に追跡調査を実施したいと考えている。

・全国学力学習状況調査の結果について

全国学力学習状況調査の結果が発表された。福井県の全国的な位置は新聞等に掲載されている通りである。小浜市の結果については、データの整理分析を行い、次回の教育委員会でご報告したいと考えているが、小中学校ともに国語は県平均を上回っている一方、算数・数学については若干県平均を下回っており、国語と算数または、国語と数学の合計では小中学校ともに県平均と同等の結果であった。新聞等には「学校DXの進捗によってICTを積極的に授業に取り入れ、授業変革が進んでいる学校の正答率と、そうではない学校の正答率とには有意な差がみられる」という記事があり、本市については『これから』という段階であるが、結果を分析しながら2学期以降の学校DXの強化と、それを基にした授業変革をさらに推進していきたい。

・学校給食費の無償化について

今朝の新聞に、あわら市の中学校において学校給食費の無償化を実施することが掲載されていた。これまで県内では、高浜町など4町が無償化を実施していたが、学校給食費の無償化を実施する市町が増えつつある。小浜市においても、市長が公約に学校給食費の無償化を掲げられてお

り、具体的にこれからどう進めていくのかを十分議論していく必要がある。総合教育会議の議題とするかどうか検討したい。

報告は以上であるが、本日、委員の皆様には旧遠敷小学校新館に移転した小浜市ふれあいスクールの視察していただいたので、その点にも含め、ご意見等があればお聞かせいただきたい。

桂田委員 ふれあいスクールの移転先は保護者の送迎が必要な場所にあり、小浜中学校校区からは遠くなったと感じる。

坂下委員 これまでの施設よりも建物も教室も学校らしい雰囲気があるので、制服で通所するようになった子もいるといった話を聞かせてもらった。このことについては、学校のような雰囲気の中で自分のペースで学習できるという良い面もあれば、逆に行きづらくなる子も出てくる可能性があると思うので、定期的に意見交換等をしながら、より良い運営ができるとうい。

村上委員 部屋も明るく、エアコンやインターネット環境も整っており、安心して通ってもらえるのではないかと思います。ただ、不登校が長期化すると、中学3年生からふれあいスクールに通所しても中学1年生の勉強から始めなければならないケースが多いと聞いた。高校受験にも影響があるので、ふれあいスクールを利用する以前に、なるべく早く学校内でフォローできることも重要だと思う。

上田職務代理者 以前の場所に比べ、市街地から外れたという点で通い難くなったように感じる。通所したいが交通手段が無いという子が出てきた場合には、送迎について検討が必要となるかもしれない。今後そのあたりが課題となってくるのではないかと。

事務局 周囲の物音も少なく、安心して通所してもらえないかと考えている。現在の通所生は、全員保護者の送迎で通っているため、今のところ特に問題はないが、今後、自力で通所したいという子が出てくることも考えられるので、送迎について検討していく必要はある。

教育長 通所に関して、自宅から近くなった子もいれば遠くなった子もおり、一概に言えない。一番望ましいのは中学校区別にふれあいスクールを設置することだが、様々な条件が整わないと難しい。ふれあいスクールの一番の目的は、学校に行けない子の学力保障であり、高校進学への進路保障をしっかりと行うこと、学校と同等の学習する場を与

えることである。ただ、そこまでの意欲をもって通所するのは、中学3年生になって進路選択が目前に迫ってからのという場合が多く、それ以前の時期からしっかり学習に取り組ませるのは難しい。県では、学校内で学習や自分の時間を過ごす「校内サポートルーム」の設置の取り組みを進めており、また、国の施策として、様々な事情により学習する機会を逸した方が通うことができる「夜間中学」を各都道府県に1校設置することも進められている。いずれにしても、いろいろな環境を用意して不登校の子どもたちに学習保障と進路の保障を行っていくことが必要であり、大きな課題でもある。都市部では民間のフリースクールの設置が進んでいるが、そういった民間事業者との連携なども自治体の新たな課題としてあり、福井県の教育に関する大綱に盛り込まれるようである。小浜市ふれあいスクールは、机に向かって勉強するだけでなく、体育館やグラウンド、隣接した神社など、学びの環境としては恵まれていると思っている。

5 その他 なし

委員会閉会 (教育長) 宣言

この会議録が真正であることを確認して署名する。

小浜市教育委員会議事録署名委員

委 員 村上 郁子 教育委員

委 員 坂下 貴洋 教育委員
